

じょうこうじ

掟光寺だより

令和3年
12月号

行事案内

●12月13日(日)
「宗祖報恩講」

13時30分から

●12月23日(月)

「お焚き上げ」

10時00分から

●12月31日(月)

「除夜の鐘」

23時45分から

仏教たとえ話

【二匹の鬼の争い】

昔、2匹の鬼が一つの箱と杖と履物を共有していた。互いにそれを自分の物にしようと争ったが、なかなか決着がつかなかった。

そこに一人の人がやって来て、この様子を見て、2匹の鬼に尋ねた。



「お前たちは先ほどから必死に腹を立てて争っているが、その箱や杖、履物には何か特別な力があるのか」

すると鬼が答えた。

「この箱はすべての衣食から日用品まで、ありとあらゆる物が意のままに出てくる。この杖はどんな敵でも屈服させることができる。そして、この履物は自由自在に空中を飛び歩くことができるのだ」といった。

それを聞いた人は、「お前たち、少しの間むこうに行っていないかい。私が今後、二度と喧嘩にならないよう公平に分けてあげるから」といった。

鬼たちは、この人の言葉を信じて、しばらく遠くに離れていた。するとその間に男は、箱と杖を手に持ち、履物を履いて空高く飛んでいってしまった。

鬼たちはこの様子を見て啞然とした。すると、男は鬼に向かつて「お前たちが争っていたこれらの物は、私がもらっていったあげるから、これからは二度と喧嘩をしなくてもよい。安心なさい」といった。

箱とは布施にたとえ、人に必要なものはすべてこの箱におさまる。杖は禅定にたとえ、煩惱の賊を降伏することができる。履物は持戒にたとえ、これを履いて、天上に登ることができる。

しかし、鬼がいくらこれらを手にしても、布施・禅定・持戒を正しく理解できず、修行もしないの、何の役にも立たない。

●「鳶とんぼに油揚げをさらわれる」ということわざがある。欲張って取り合いをしていると、結局、横合よこあひいから奪われてしまうという意味。

●鬼とは欲深い人をたとえている。良い金銀財宝があったとしても心が整っていないければ、到底うまく使いこなすことができない。

星祭りお札のご案内

例年のごとく、厄除け・星除け守札をお書き、御祈祷致します。

令和四年度は五黄壬寅ごおうみずのえとらという年。

●五黄土星は帝王の星、中国の黄土を示す。極端な結果を招きやすいと言われ、破壊と再生の意味合いもある。

●「壬寅」はまだまだ我慢すべきことは多いが、水のエネルギーを得て、躍動する直前である年。

このような大きな気の中で私たちの小さな気がどのような影響を受けるのかを事前に知ることが重要です。私たちの気もそれぞれ違うので、来年の大きい気(五黄壬寅)が自分にとって追い風の人もいれば、向かい風(厄年)の人もあるわけです。

【申し込み用紙】も準備できましたので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。

